

注意① 解答はすべて別紙の解答用紙に記入しなさい。

注意② 字数が指定されている設問では、「」や「。」も一ます使いなさい。

1

中学生の山下さんは、地域のスーパーマーケットで職場体験をするようになった。【場面1】～【場面3】における会話を読んで、①～④に答えなさい。

No. 1
受験番号
算用数字

【場面1 教室にて】

担任 今日、授業の一環として、地域での職場体験を行います。皆さんがそれぞれ希望した事業所に伺うこととなりますが、事前に学習したことを生かしつつ、受け入れ先の方のおっしゃることをよく聞いて、たくさんのことを吸収してきてください。私も各事業所に順に訪問する予定ですので、見かけたら声をかけてくださいね。

【場面2 スーパーマーケットにて】

店長 山下さん、よろしくお願います。普段の生活では、知らない人と話す機会は少ないと思いますが、今日はこの店の一員です。店内では、お客さんや店員と積極的に関わることを心がけてくださいね。

山下 わかりました。よろしくお願います。

店員A では、山下さんには食品売り場を担当してもらいます。まずは、この箱に入っている商品を陳列してください。

山下 チンレッツ……？

店員B じゃあ、私と一緒にやってみましょうか。よく見ておいてくださいね。

客C やあ、今日は中学生も手伝っているんだね。悪いが、その棚のいちばん下にある海苔を取ってくれないか。

山下 こちらですね。はい、どうぞ。

客C ありがとうございます。

客D 今日の広告に載っていた卵はあるかしら。

山下 えっと、その卵は……。

店員B お客さま、あいにくですが、広告に載っている卵は売り切れてしまいました。他の卵でしたらございますが、いかがでしょうか。こちらは通常一パック二百円ですが、お買い上げ金額の合計が二千円以上の方には、一パック百円とさせていただきます。

客D いいわね。じゃあ、それをいただくわ。

店員B ありがとうございます。

客E すみません。こちらのお店では、買った商品を家に配達していただくことはできますか。

山下 その件についてはよくわかりませんので、他の店員に聞いてみてください。

客E そうですか。わかりました。

担任 山下さん、こんにちは。

山下 あ、先生、こんにちは。

店員A 先生、いらっしゃいませ。ちょうどお昼ですから、山下さんは先生と一緒に休憩してきてください。

山下 わかりました。お先に行つてまいります。

【場面3 休憩室にて】

山下 先生、見に来てくれてありがとうございます。

担任 お疲れさまでした。スーパーでの仕事はどうですか。

山下 食品売り場にいると、お客さんからいろいろいるなことを聞かれるので、それに答えるのが難しいですね。

担任 そうですね。最後に話していたお客さんは、他の店員に聞くように言われたのが少し不満そうな様子でしたね。

山下 そうでしたか。僕も知らないことを聞かれて焦ってしまったので、落ち着いて「その件については、◎」と答えればよかったですね。

担任 そうですね。近くに他の店員さんもいたから大丈夫でしょう。少しずつ対応の仕方を学んで、午後からの仕事もがんばってくださいね。

① 「◎陳列して」とあるが、この表現は山下さんにうまく伝わらなかった。これを山下さんにとってわかりやすい表現に改めるとき、適当な言葉を解答欄に合うように五字以内で書きなさい。

② 【場面2】の部分の、客Dに対する店員Bの発言について説明したものと最も適当なのは、ア～エのうちではどれか。一つ答えなさい。

ア 相手の意見を受け止め、譲歩したうえで自分の考えをはっきりと述べている。

イ 相手の意向に配慮しつつ、次善の選択として考えられる案を提示している。

ウ 相手の発言の真意を理解せず、自分の判断で商品を勧めようとしている。

エ 相手の希望を聞き入れ、それに合う商品を紹介しながら説明を加えている。

③ 「◎見に来てくれて」の「くれて」を適当な尊敬語にして、傍線部◎全体を書き改めなさい。

④ ◎について、山下さんは担任の先生との会話の中で反省点に気づいた。【場面1】～【場面3】における会話の内容を踏まえて、◎に入れるのに適当な言葉を、解答欄に合うように十五字以内で書きなさい。

No. 2
受験番号
算用数字

2

次の文章は、中学三年生のモト(作者はモトを二人称で「きみ」と呼んでいる)が、勉強やスポーツで常転がっていくボールにブンが追いついたとき、下級生の挨拶の聲がグラウンドに響いた。顧問の中江先生が職員室から出てきたのだ。先生はファックスの紙を持っていた。全員集まれ、と両手で部員を手招いた。

ショックを受けている。これを読んで、①～⑥に答えなさい。

美紀に交際を断られても、ブンと俺との関係は変わらない。そう自分に言い聞かせて、だいじようぶ、ちゃんとやっつけていける、という自信もあった。

最初は気まずそうだったブンも、きみが屈託のない態度で接しているのほっとしたのか、数日たつと、いまままでどおり「モト、モト」と声をかけてくるようになった。

サッカー部の練習でも、きみたちのコンビネーションは冴えわたっていた。四月におこなわれた春の大会では、去年の秋の新人戦から二連覇になる地区優勝を果たし、念願だった市内ベスト4まで達成した。その勢いが中学時代最後になる夏の大会までつづいてくれれば、創部以来初めての市内優勝だって、十分狙える。もうひとつ、きみとブンには大きな目標があった。

姉妹都市として交流をつづけているオーストラリアの市から招待されて、市内で選抜したチームが七月に遠征試合をおこなうことになった。五月の連休を利用して開かれた選考合宿には、きみたちも呼ばれた。その結果がそろそろ発表になる頃だった。

オーストラリアへ行くこと以上に、市の代表に選ばれるというのがうれしい。競争の難易度が上がるといっただけで胸がわくわくする話だった。

その日も、ブンと組んでウォーミングアップのパス交換をしながら、選抜チームの話をした。

「サイドバックに足が速い奴が多かったから、ポストプレイ増やしてくると思うんだよな。だから、俺じゃなくて、モトみたいなトップを絶対に欲しがると思うぜ、あの監督」

合宿中にあまり調子が良くなかったブンは、しだいに弱気になっていた。

一方、きみは合宿の仕上げの紅白戦で一ゴールを決めた。ポストプレイの出来も良かったし、初めて組んだチームメイトとのパスのタイミングもうまくつかめていた。メンバーに残る自信はあるし、合宿の様子を冷静に判断して、ブンはちよつとヤバいかな、とも思う。

だから、きみは笑って言う。

「だいじようぶだよ、ブンなら。俺のほうがヤバイよ、マジ」

「いいっていいって、気いつかうなよ、そんなに」

浮き球のパスが来た。笑顔と一緒に送ったような、ふわり、とやわらかいパスだった。

胸で受けて、足元でトラップして、「マジだよ、マジ」と同じように浮き球を返した。距離が長すぎた。ボールはブンの頭上を大きく越えていく。

「悪い！」

両手をメガホンにして詫びるきみに、ブンは「選抜の奴らだと捕れるよ、いまのパスは」と笑って、ボールを追いかけていった。

悔しさがないはずはないのに、それを見せない。いい奴だよな、ほんとに。あらためて思う。いい奴だし、おとななんだろうな、とも。

俺はだめだな。自分が嫌になる。なんで「だいじようぶだよ」なんて言ったのだろう。つまらない謙遜だった。ほんとうは、謙遜ですらない。もつと底意地が悪くて、もつとずるくて、ブンを励ましたり気をつかったりしているわけではなくて……メンバー発表のときにブンの名前がなかったら、その瞬間、やっただぜ、と勝ち誇って笑うはずの自分がある。どんなにごまかしても、心の片隅の、ここに、確かに——でも、心って、どこにあるんだろう……。

美紀をめぐる一件以来、そんなことをしよつちゆう考えるようになった。自分がどんどん嫌いになる。俺って、こんなにヤな奴だったっけ。気づかなかったのかよ、とあきれて笑う自分も、心の片隅にいる。おまえてってサイテーの奴だったんだぜ、なんでもままでわからなかったんだ？

転がっていくボールにブンが追いついたとき、下級生の挨拶の聲がグラウンドに響いた。顧問の中江先生が職員室から出てきたのだ。先生はファックスの紙を持っていた。全員集まれ、と両手で部員を手招いた。

選抜チームの発表だ、とすぐにわかった。

先生のもとに駆け寄る途中、ブンをちらりと見た。試合中のような険しい横顔で走っていたブンは、きみの視線に気づくと自分の顔を指差して、無理だよ無理、と手を横に振って笑った。そして、きみを指差して、OKマークをつくる。拍手のジェスチャーもした。

でも、数分後、円陣を組んだ部員たちの拍手を浴びたのは、きみではなく、ブンだった。

きみたちは、また、「選ばれた者」と「選ばれなかった者」に分かれてしまった。

出典 重松 清『きみの友だち』

(注) サイドバック：味方ゴール前の左右に位置し、主に守備を行うポジション。ポストプレイ：相手ゴール前で味方のパスを受けて起点を作り、攻撃を組み立てていく方法。

トップ：相手ゴール付近に位置し、主に得点を取るポジション。トラップ：手以外の体の一部でボールを受け止めて、コントロールする技術。

① —の部分⑥・⑦・⑧の漢字の読みを書きなさい。

② 「⑥ブンと俺との関係」とあるが、サッカー部における二人の関係について説明した次の文の□A・Bに入れるのに適当な言葉を、文章中からAは十二字、Bは九字で抜き出して書きなさい。

ブンとモトは、抜群のコンビネーションでサッカー部を勝利へと導く存在であり、ともに夏の大会では□Aを、また、七月にオーストラリアの姉妹都市でおこなわれる遠征試合では□Bことを目標にしている。

③ 「⑧競争」と熟語の構成が同じ言葉として最も適当なのは、ア

- ア 即効    イ 添削    ウ 人造  
エ 赴任    オ 祈念

④ 「⑩俺じゃなくて、モトみたいなトップを絶対に欲しがると思っぜ、あの監督」とあるが、これと同じような考えをブンが自身の行動によって表現しているひと続きの三文を文章中から抜き出して、はじめの五字を書きなさい。

⑤ 「⑪つまらない謙遜」とあるが、その具体的な内容について説明した次の文の□□に入れるのに適当な言葉を、五十字以内で書きなさい。

モトが□□と言ったこと。

⑥ この文章の内容について説明したものとして最も適当なのは、ア

- ア エのうちではどれか。一つ答えなさい。  
ア モトは自分が選抜チームに選ばれなかったことは本意だが、ブンとの実力の差は認めざるを得ないと感じている。

イ 気まずさを隠そうと屈託のない態度をとるモトに対し、ブンはまるで何事もなかったかのように自然に接している。

ウ ブンは選抜合宿が不調に終わったことに意気消沈していたが、モトの励ましによって少しずつ自信を取り戻している。

エ 美紀に交際を断られて以来、モトは心のどこかでブンの不幸を願う自分があることに気づき、自己嫌悪に陥っている。

No. 3
受験番号
算用数字

3 次の文章を読んで、①～⑥に答えなさい。

日本人と「もの」との関係は、なかなか微妙で奥深いものがある。ものところ、というふうに区別して考えて、西洋の物質文明に対して、日本（あるいは東洋）は精神を大切にす文化である、という主張がよく聞かれる反面、<sup>①</sup>オクリ物をするときなど、日本人はこの百貨店かとか、値段はいくらかとか、そんなことばかり気を使っているが、欧米人の場合は、相手の人が喜ぶものをと考え、心のつながりを大切にし、値段のことなどこだわらない、ということを強調する人もある。東洋と西洋、それにもところ、という二分法を行い、それぞれをどちらに当てはめるか、というような議論をしても、あまり実りあるものにならないように思う。

日本人と「もの」との関係を考える上で、ひとつの鍵となるのは、<sup>②</sup>「もつたいたい」という感覚であろう。精神分析家の土居健郎氏が、「甘え」という言葉が英語で表現できないことに気づき、そこから日本人の心性を分析するためのキーワードとして「甘え」を用いることになったのは有名な事実である。筆者も、ロスアンゼルスで一九五九年頃、ユング派の分析を受けていたとき、この「甘え」を英語で表現できず、苦勞した覚えがある。

分析を英語で受けることの利点は、自分が当然のこととして感じ、考えていることが、必ずしも当然でもなく一般的でもないことを知り、そのことを他の文化の人に説明する過程において、それをもう一度異なる角度から見直すことができる点にある。筆者が分析場面で、「甘え」と同様、英語の表現につまった言葉に「もつたいたい」がある。

「もつたいたい」は、日本人——と言っても若い人はそうでもないだろうが——にとつては大切なことで、すぐに心に浮かんでくるので、英語で言おうとするがうまくいかない。と言つて、そこでひるんでは駄目なので「これは日本人にとつては極めて重要な概念である」などと前置きをして、下手な英語で説明するが、そう簡単には事が運ばない。落語か漫才の種になりそうな会話が続く。

「それは、もの自体がもつ価値の重さ」であるなどという、すぐに「どのような価値か」と問い返される。経済的価値でないことは相手もすぐに了承する。「ものに對する愛情か」と、分析家も何とか理解しようと努力して、いろいろと問いかけてくれる。「そのものに投入されたエネルギーの量か」なども聞かれる。これらのどれに対しても「ノー」と言わざるを得ない。確かに、思い出してみると、子どものときに、御飯の一粒も無駄にしてはいけないと教えられたとき、この一粒のためにお百姓さんがどんな苦勞をされたか、などと聞かされたことを思い出す。しかし、だからと言つて「それに対して投入されたエネルギーの量」など明確に言われると、反射的に「ノー」と言いたくなる。

「それではどうなのか」と問いつめられると、「こちらも何とか言わねばならない。結局は、「もつたいたい」というのは、もの自体、それがどんなものであれ、その存在に価値を置くのである。しかも、人間が、美しいと感じるとか好きだとかいうのでもなく、それをつくるのにどれだけ苦勞したかというのでもない。いわば、人間とドクリツに、ものの存在に対して畏敬の念をもつことである。などと言つと、「お前の言おうとすることを、そのまま実感をもつて理解するところまではいかないが、それが日本人にとつて非常に大切なものであることはわかった」ということになる。

英語で話していると、どうしても明確な表現になる。自分で説明しながら、何だか言い過ぎだと感じるが、どうしようもなく、もどかしい感じが残る。「もつたいたい」というのは、考えてみると不思議な言葉で、ものをスてる人に対して、「もつたいたいことをする」と言う場合は、不都合な、という非難がこめられているが、誰かにものを貰ったとき、「もつたいたいことで」と言うときは、「かたじけない」と言う感謝の意味である。なんだか、まったく反対の意味に使われるように感じられる。これは欧米人には非

常に奇妙に感じられるのではなからうか。

日本語で話をしているとき——と言うよりは日本人の考え方は——主体と客体、ものところなどを明確に区別しないままで、そのときの文脈に応じて適当な判断を加えているので、こんなことが生じるのだらう。<sup>③</sup>「もつたいたい」は、そんな点で、極めて日本的な表現である、ということができる。

出典 河合隼雄『日本人の心のゆくえ』  
（注）ユング派：スイスの精神科医・心理学者であるユングが創始した分析心理学。

① ———の部分②・④・⑤を漢字に直して楷書で書きなさい。

② 「つながり」の品詞は、ア・エのうちではどれか。また、同じ品詞の言葉は、オ・クのうちではどれか。当てはまるものをそれぞれ一つずつ答えなさい。

- ア 名詞
- イ 動詞
- ウ 副詞
- エ 連体詞
- オ この
- カ 出会う
- キ 日本
- ク ずいぶん

③ 「もつたいたい」という感覚」について説明したものとして最も適当なのは、ア・エのうちではどれか。一つ答えなさい。

ア さまざまなもの美しさを見いだして愛情を抱くことであり、若い日本人にとつては特に大切な概念である。

イ ものの存在自体がもつ経済的価値の重さを表し、日本人とものとの関係を考える手がかりとなる概念である。

ウ ものの存在自体に価値を見いだして畏敬の念をもつことであり、日本人にとつては非常に重要な概念である。

エ ものをつくるのに要する苦勞やエネルギーの量を表し、日本人が子どもの頃から教えられてきた概念である。

④ 「分析家も何とか理解しようと努力して、いろいろと問いかけてくれる」とあるが、他の文化圏の人から英語で精神分析を受けることの利点について説明した次の文の□A・Bに入るのに適当な言葉を、文章中からAは十七字、Bは十四字で抜き出して書きなさい。

日本人である自分の思考が □A ことを知るとともに、それを □B ことができる点。

⑤ 「⑥『それに対して投入されたエネルギーの量』などと明確に言われると、反射的に「ノー」と言いたくなる」とあるが、このような返答をするときの筆者の心境について説明しているひと続きの二文を文章中から抜き出して、はじめの五字を書きなさい。

⑥ 「⑥『もつたいたい』は、そんな点で、極めて日本的な表現である」とあるが、筆者がこのように述べる理由について、八十字以上百字以内でまとめなさい。

No. 4
受験番号
算用数字

4

次の文章は、『おくのほそ道』の一節と、その解説文である。これらを読んで、①～④に答えなさい。

芭蕉はしやう自身、なつかしきという感情を胸にはぐくんでいた人物に他ならなかった。元禄三年六月二十日という日付の、加賀かがの俳人こ春はるあて書簡に次の一句が記されている。

③ 京きやうにても京なつかしやほととぎす

いま自分は京に来ているのだが、偶然ほととぎすの啼なくのを聴いた。すると卒然として過ぎし世の都大路みやじが甦よみがえってきて、そこを牛車ぎしやで行きかう貴人をはじめ、さまざま年齢、身分の人びとの姿が眼の裡うちらにうかび、なつかしきの思いがこみあげてきた。――芭蕉のこの句は、うつしみの京と甦よみがえってくる俳おもかげの京とを、わが胸のうちで打ち重ねて受けとめている。具体的な情景は何も語られていないが、それはさながら闇夜に一声二声、ほととぎすの声だけが聴えたときの印象そのままといえる。何でも無いような作柄さくばらでいながら、芭蕉の感受性の深さが味わえる句であり、なつかしきの原型のような句である。

⑥ この「なつかしき京」は、われわれの感性と言葉がよく磨かれていれば、「なつかしき日本」に置き換えてゆける筈はずである。芭蕉が心をゆるがされた機縁はほととぎすの声だった。これは、自然に触れて懐古の情が湧いたという意味と、音（音楽）を耳にして過ぎし日々の記憶が湧き出したという意味の、どちらにも理解することができる。忙しい現代都会生活のなかで、ふと道傍みちばたのたんぽぽや露草つゆくさに気付き、にわかの子供のころそんな草花を摘んで遊んだのを思い出すのも自然である。一方、ブルーストがマドレーヌ菓子マドレーヌの仄ほかな匂においによって、幼時の記憶を甦よみがえらせたように、匂いや音が誘いだすなつかしさもありえよう。

けれども、甘酸あまざっぱいような幼き日々の再現とか、かすかな胸の悶もえを伴って浮びあがってくる恋人の思い出かを、じかに「なつかしき日本」に結びつけようとしても、たいして意味はなさそうである。それではどうにもなりはしない。「なつかしき日本」をまさぐるというのであれば、別の要素が必要であるようだ。私の見るところでは、それには古き世、いにしえの人への心底からの敬意と憧れが必要なのである。古きものと真の交わりを結ぶ技術――これが「なつかしき」に他ならないのだから。

「おくのほそ道」の旅で、白河しろかの関越えは次のように述べられている。

なかにも、この関は三関さんかんの一にして、風騒ふうさうの人、心をとどむ。秋風を耳に残し、紅葉もみぢを俤おもかげにして、青葉あおばのこずゑ、なほあはれなり。卵たまごの花のしろたへに、いばらの花の咲きそひて、雪にも越ゆる心地ぞする。古人こじん、冠かんを正し、衣装を改めしことなど、清輔きよすけの筆にもとどめ置かれしとぞ。

卵たまごの花をかざしに関の晴着はれぎかな

曾良そら

古くこの関を能因のういんが越え、西行さいぎやうが越えた。あまたの歌を生んだこの歌枕うたまくらを訪れることは芭蕉の念願の一つだった。ところで、かつて能因が詠んだ秋風の白河、源頼政みなもとのかたよが詠んだ紅葉の白河を思い起おこしながら、青葉のなかを歩んでゆくと、芭蕉の心に言いようのないなつかしさが立ちこめてきたのである。この感情に促され、古来の仕来りきたりに従って、僧形そうぎやうの芭蕉と曾良も衣の襟を正し、裾すその皺しわを伸のびしたにちがいない。こうして「晴」の身となって関を越え

ていったらう。

なぜここで身を整え、「晴」の心で越えるのか、と問う気持ちなど生じなかったにちがいない。古くからそうすることになっているのである。この「なぜ」の成立しない世界、それがものに触発され、音に誘われて、また旅の歩みにつれながら甦よみがえってくれば、それこそ真の意味でなつかしいと言ふに値するだらう。

出典 高橋英夫『松尾芭蕉の故郷を訪ねて』

（注）うつしみ：現在生きている身。

ブルースト：二十世紀のフランスの小説家。

マドレーヌ菓子：洋菓子の一種。

風騒の人：詩文を作る人々。

心をとどむ：関心が向けられている。

卵の花：ウツギの花。小さな白い花が集まって咲く。

古人：陸奥守竹田大夫国行。

清輔の筆：平安後期の歌人藤原清輔が書いた『袋草子』という歌学書。

能因：平安中期の歌人。

西行：平安後期から鎌倉初期の歌人・僧。

源頼政：平安末期の武将・歌人。

晴：普段とは異なる、改まった場面のこと。

① 「京にても京なつかしやほととぎす」とあるが、この句について説明した次の文の□に入れるのに適当な言葉を、十五字以内で書きなさい。

この句では、芭蕉が京でほととぎすの鳴き声を聴いて胸にこみあげてきたなつかしさを詠んでいるが、これは□とも、音を耳にしたことで湧き出した過ぎし日々の記憶とも、理解することができる。

② 「⑥この『なつかしき京』は、われわれの感性と言葉がよく磨かれていれば、『なつかしき日本』に置き換えてゆける筈である」とあるが、そのために必要な要素について説明した次の文の□に入れるのに適当な言葉を、文章中から二十二字で抜き出して、はじめの五字を書きなさい。

日常生活のなかで胸にこみあげてきたなつかしさを「なつかしき日本」に置き換えるためには、□が必要である。

③ 「③青葉のこずゑ、なほあはれなり」の読みを、現代かなづかいを用いてひらがなで書きなさい。

④ 「⑥冠を正し、衣装を改めしこと」とあるが、白河の関を越える人がこのような行動をとる理由について説明したものととして最も適当なのは、ア～エのうちではどれか。一つ答えなさい。

ア 白河の関では、卵の花に白い茨の花が咲き添って、雪の中を越えているような気がするから。

イ 白河の関は衣服を整え、晴れがましい気持ちで越えるものだという古来の仕来りがあるから。

ウ 歌枕として知られる白河の関を越えることは、多くの人々にとつて生涯の念願であるから。

エ 昔の歌を思い出してなつかしさを感じると同時に、身の引き締まるような思いがするから。

国語 解答用紙

注意 字数が指定されている設問では、「、」「や」「。」も一ます使いなさい。

1

④	③	②	①
その件については、			商品を
			ください。

2

⑥	⑤	④	③	② B	② A	① g	① e	① b
							しき	

3

⑥				⑤	④ B	④ A	③	②	① g	① f	① a
								品詞	てる	り物	同じ品詞の言葉

4

④	③	②	①

受験番号
算用数字

計
※100点満点 (配点非公表)